



### 特集 1

# 新型コロナウイルス感染症への 武蔵野市の対応と取り組み



武蔵野市長  
松下 玲子

武蔵野市では、世界保健機関（WHO）が緊急事態宣言を発表した1月31日（日本時間）に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置しました。その後、日本全国で感染が広がりました。国では、法改正の後、初めて緊急事態宣言が発令され、それに伴い東京都も緊急事態措置を発令し、緊迫と混乱が入り交じる社会状況となったことは皆さまの記憶にも新しいことと思います。この間、市民の皆さまには外出自粛のほか、学校の臨時休業や公共施設の休館などでご不便をおかけすることになりましたが、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

市の対策本部会議の開催は6月末ですでに30回を超え、さまざまな部署が連携して、市民の皆さまの不安が少しでも解消されるように全力を挙げて取り組んでまいりました。そして、特別定額給付金の迅速な給付や、市民の皆さまのいのちと暮らし、経済を守り、安心と活力を取り戻すための市独自の取り組みを実施するための緊急的な補正予算の編成などを進めてまいりました。

未知のウイルスとの闘いは、長期にわたることが予想され、今後も多くの解決すべき課題はありますが、前向きに、知恵を出し合い、新たなことにも挑戦して、この難局を市民の皆さまと共に乗り越えていきたいと思っています。

# 2020年という節目の

# 年に訪れたかつてない

# 状況に立ち向かう

ここでは新型コロナウイルス感染症の発生から

6月2日に至るまでの武蔵野市の対応や

さまざまな取り組みと、国・東京都の対応、

世界の動きを時系列でお伝えします。

\*編集・作成上6月2日までになっていません。

続編については秋・冬号でお知らせします。

新型コロナウイルス感染症に関する市からのお知らせや最新の情報は市ホームページでもご案内しています。



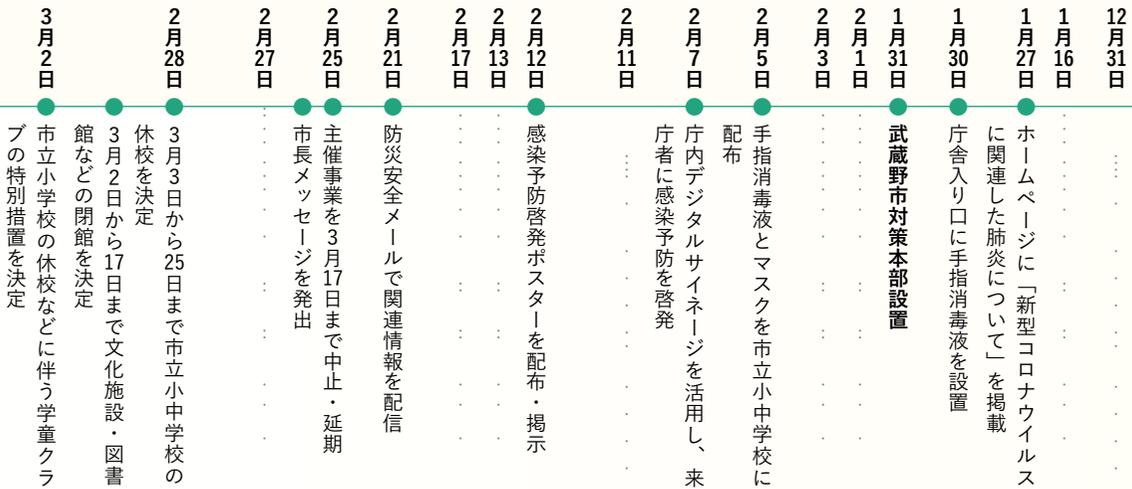
武蔵野市新型コロナウイルス感染症特設トップページ



A

武蔵野市新型コロナウイルス感染症対策本部を1月31日に設置。感染拡大防止策や各種事業の実施可否、学校や施設などの休校・休館についても適宜協議し、決定してきました。国や都の動向を受けての取り組み、市独自の取り組みなどを検討するため、また刻一刻と変わる状況に柔軟に対応するために6月末時点で30回を超える本部会議が開催されました。

## 〈武蔵野市〉



## 〈国・東京都〉

- 国内初の感染者
- 対策本部設置
- 対策本部設置
- 指定感染症に指定
- 大型クルーズ船が横浜港に来航
- 厚生労働省による電話相談窓口を拡充

## 〈世界〉

中国がWHOに肺炎ウイルスの発生を報告

WHOが緊急事態宣言(現地時間)

WHOが発表 新型コロナウイルスを「COVID-19」と命名

### 国内初の死者

医療機関を受診する際の目安を示す

主催イベントを3週間中止・延期

小中高・特別支援学校に春休みまでの休校を要請

当初の目安は37度5分以上の熱が4日以上続いた場合。ただし高齢者・基礎疾患のある方・妊婦は2日以上続いた場合。



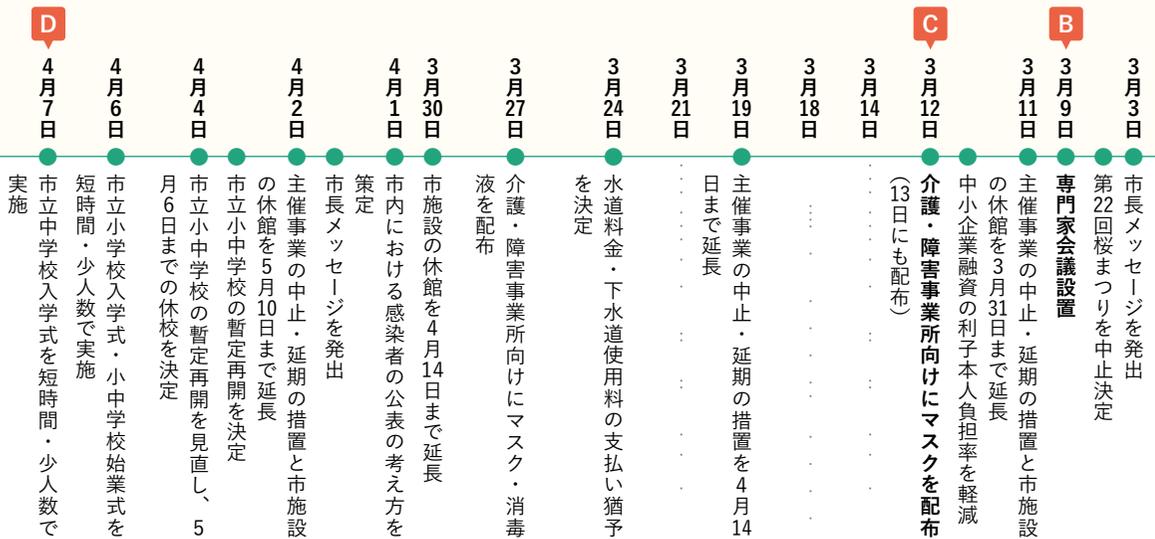
**D** 4月7日、7都府県に緊急事態宣言が発令されました。それに伴い、発令対象の7都府県では不要不急の外出の自粛が呼びかけられました。市でも、市内3駅と商店街に外出自粛の協力を呼びかける横断幕を設置しました。まちを行き交う人の数は激減し、市内の様子も一変しました。



**C** マスクや消毒液の品薄状態が続き、市場で手に入れることが困難な状況が続きました。市では、高齢者施設、障害者施設などの福祉施設や市医師会・医療機関へ、市が有事のために備蓄していたマスクと消毒液を配布・貸与しました。感染のリスクに備えながらも福祉・医療サービスを提供する関係施設を積極的に支援しました。



**B** 3月9日に市医師会、武蔵野赤十字病院などの医師などで構成する「武蔵野市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」を設置。専門家会議の意見を参考にしながら、市の方針を決定していくこと、各関係機関との協力、情報共有を密にし、新型コロナウイルス感染症対策にあたっていくことが確認されました。



**都** 新型コロナウイルス特設サイト開設

**国** 改正特別措置法を施行

世界の感染者数が20万人を超える

WHOがパンデミックを宣言

**都** 都主催イベントの対応方針を示す

**国** 学校再開のガイドラインを示す

**国** 五輪延期に合意

**都** LINEを活用したパーソナルサポートを開始

世界の感染者数が50万人を超える

**都** 居住地別感染者数を公表へ

**都** 市内の1日の感染者数118人 初めて100人を超える

世界の感染者数が100万人を超える

**国** 7都府県に緊急事態宣言を发出

**都** 緊急事態措置相談センターを設置



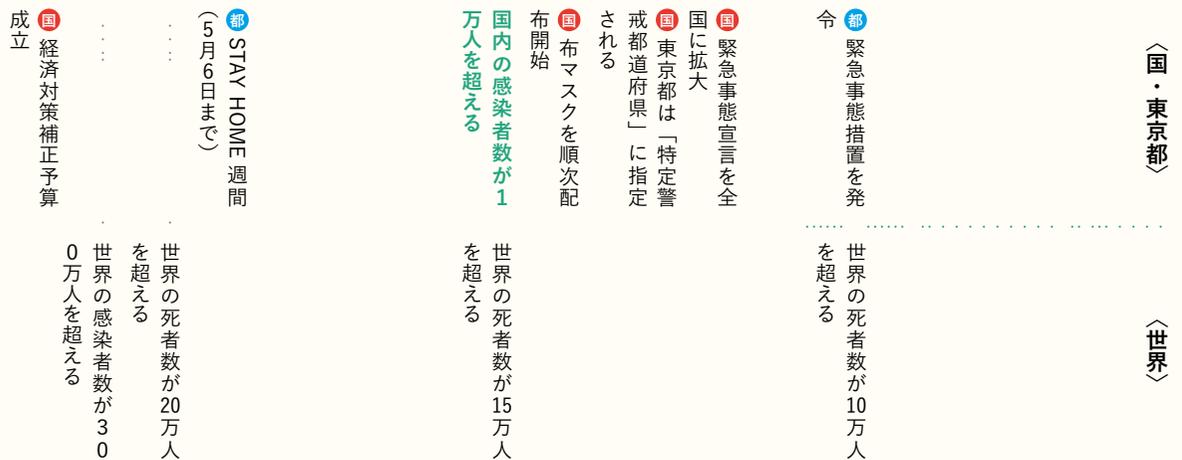
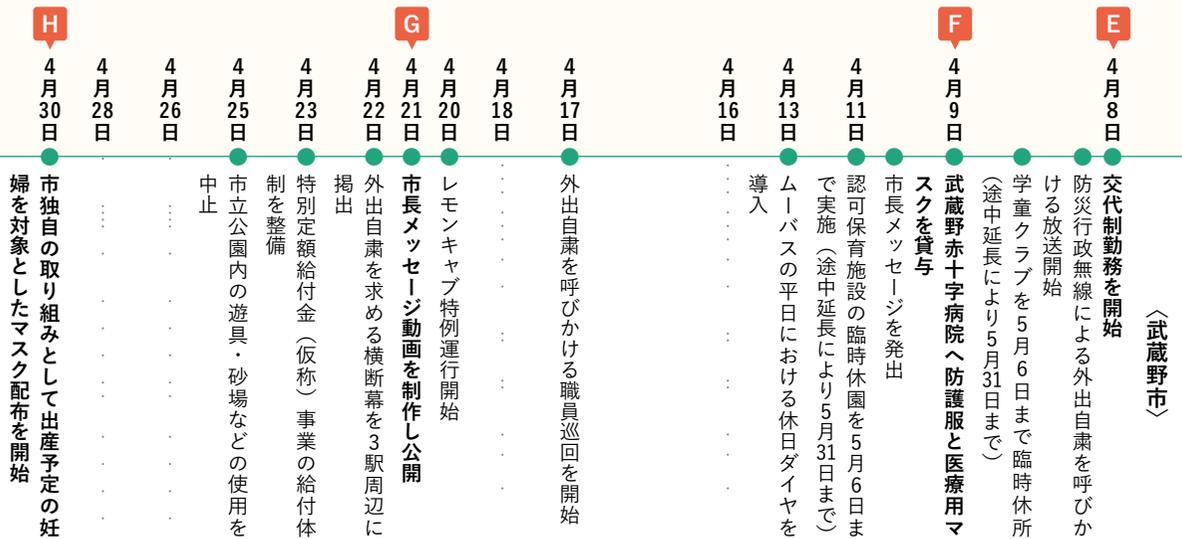
**G** 外出の自粛などを効果的に市民の方へ呼びかけるために、市長メッセージ動画を制作。ホームページ、SNS、吉祥寺駅と武蔵境駅のLEDビジョンで放映したほか、むさしのFMやJ:COM東京の番組などでも放送しました。



**F** 感染者増加に伴う医療崩壊の危険性が叫ばれる中、武蔵野市では、医療機関への支援としてマスクなどの貸与を行っていましたが、圏域唯一の感染症指定医療機関である武蔵野赤十字病院からの要請を受けて、最前線で働く医療従事者の安全と医療体制維持のため、同病院に防護服と医療用手袋を貸与しました。



**E** 市役所では、感染防止に努めながら業務を滞りなく継続していくために窓口にパーテーションや仕切りを設けて、飛沫による感染を防ぐ取り組みを実施。また、職員間の感染を防ぐために、組織を原則2班体制とし、交代制の在宅勤務の導入や執務室を分けて業務を行う体制をとりました。





**J** 市内に店舗、事務所がある中小企業・個人事業主を対象として、国の持続化給付金、都の感染拡大防止協力金、市の緊急支援金の申請方法や提出書類に関するサポートを行う窓口を市内3カ所に開設しました。(三鷹は6月8日に開設)



**I** 市民のいのちと暮らし、経済を守り、安心と活力を取り戻すため、PCR検査センターの設置や中小企業者等緊急支援金の給付など市独自の取り組みなどを盛り込んだ「緊急事態宣言の延長に伴う対応方針」を策定し、5月13日に臨時記者会見を開き、その詳細について発表しました。



**H** 感染症拡大防止のために、国が布製マスクを妊婦の皆さんに配布する事業が一時中断されました。市では、独自に妊婦の感染不安の軽減を図るための支援を行うことを決定しました。寄付いただいたマスクや備蓄していたマスクを活用し、配布しました。



市独自の施策(一例)  
 ・PCR検査センターの設置  
 ・感染拡大防止中小企業者等緊急支援金など

- 国** 専門家会議が「新しい生活様式」を呼びかける
- 国内** の死者数が500人を超える
- 国内** の感染者数が1万5000人を超える
- 国** 緊急事態宣言を5月31日まで延長
- 国内** の1日の感染者数が100人を下回る
- 国** レムデシビルを特例承認
- 国** 医療機関を受診する際の目安を見直す
- 国** 39県の緊急事態宣言を解除
- 都内** の感染者数が5000人を超える

目安は「息苦しさ」「強いだるさ」「高熱がある」のいずれかにあてはまる場合。ただし高齢者・基礎疾患がある方・妊婦は比較的軽い風邪症状がある場合。

世界の感染者数が40万人を超える  
 世界の死者数が30万人を超える



**M** 外出自粛要請や短縮営業・休業要請などにより経営悪化に直面している飲食店などに対し、地域のにぎわいや交流を支えていくためのクラウドファンディングを実施しました。支援額に応じて提供される食事券には、市が20%分を上乗せ。当初目標としていた1000万円を超え、約1700万円の支援金が集まりました。



**L** 5月21日に武蔵野市PCR検査センターを設置。市内医療機関（非公表）の敷地内において、ドライブスルー方式で検査が受けられる体制を整備しました。検査はかかりつけ医による診断・予約後に受けることができます。



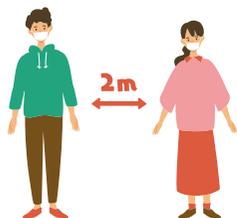
**K** 5月18日から29日までの平日、学童クラブの子どものためだけに給食弁当の提供を行いました。事前注文制で、北町調理場で作った給食弁当を各クラブへ配送しました。

熱が続いている、<sup>せき</sup>咳があるなどの体調が悪い方、新型コロナウイルス感染症？と思ったら、まずは「かかりつけ医」に相談を。



# みんなで協力して乗り切ろう 「新しい生活様式」をスタンダードに

## 感染防止のためにできること



人との間隔は、できるだけ2メートル以上空け、会話をする際はなるべく真正面を避けましょう。



外出時は、症状がなくてもマスクを着用してください。夏場は熱中症に注意し、小まめに水分補給を行いましょ。



手洗いは30秒ほどかけて水と石けんで丁寧に。手指消毒液も利用して小まめに行いましょう。帰宅したらシャワーを浴びたり着替えたりするのも効果的です。



帰省や旅行、出張などはなるべく控え、特に感染が流行している地域への往来は避けてください。発症したのために誰とどこで会ったかをメモしておきましょう。



買い物は1人または少人数で、なるべくすいた時間に。レジに並ぶ際は、前後にスペースを空けて並びましょう。電子決済や通販の利用も接触を減らすことにつながります。



筋トレやヨガなどは自宅で動画を活用しましょう。公園はすいた時間・場所を選び、ジョギングなどですれ違うときは距離をとってください。歌や応援は十分な距離をとるかオンラインで。



外食の際は対面ではなく横並びで座り、多人数での飲食は控えましょう。お酌やグラスなどの回し飲みも避けてください。混雑時は持ち帰りや出前なども利用しましょう。



テレワークやローテーション勤務、時差通勤を導入し、職場での密集を避けましょう。会議や名刺交換はオンラインで。対面する業務では換気とマスクを忘れずに。

ご自身やご家族、周りの方々、そして地域を感染拡大から守るため、日常生活の中で感染を防ぐ「新しい生活様式」を実践していきましょう。さまざまな媒体で繰り返し発信されている内容ですが、もう一度確認して、一人ひとりがしっかり意識して行動していくことが元の日常を取り戻す一番の近道です。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。



密閉



密集



密接

3つの「密」を避けましょう